第12回世界精神医学会横浜大会
精従懇特別フォーラム「精神保健福祉の変革」

シンポジウムIII

これからの精神保健福祉

座長：高 橋　一（日本精神保健福祉士協会副会長，東京国際福祉専門学校）
進 藤　義 夫（NPO障害者支援情報センター理事長）

このシンポジウムでは，世界で成功している精神保健福祉システムの発展過程を参照しつつ，PSWの視点から，日本のシステムについて概観し，精神保健福祉士の課題及び政府に要請される諸施策を明らかにすることを目的として，3名の精神保健福祉士の報告をもとに検討を行った．

1）第1発表者の日本精神保健福祉士協会会長・門屋充郎氏は，日本の精神保健福祉医療システムの流れを振り返り，一貫して社会防衛として役割を果たしてきたこと，昨今まで精神病院の病床削減計画が提示されず，33万人もの入院者のうち1/3から1/2が社会的入院であることに触れ，日本が，先進諸国の中でいかに遅れた状況にあるかを再確認した．

1995年，ようやく精神保健福祉法が成立したが，問題は山積している．門屋氏は，今後どのような対策を行うべきかについて，提案を行った．

その上で，2003年に国が各自治体で導入する「ケアガイドライン」を導入することに触れ，その展開に必要な条件や今後への期待について述べた．

2）次に，第2発表者である木太直人氏は，「精神保健福祉士の当面の課題：生活モデルの推進」というテーマで，1997年に精神保健福祉士が国家資格として成立してからの5年間を振り返った．この5年間は地域生活支援を推進する制度的条件が整備されていった時期であるが，社会的入院の解消にむけての精神保健福祉士の本格的な取り組みはこれからであると木太氏は指摘した．

次に，精神保健福祉士のこれからの5年間で期待される役割として，病院と地域の架け橋としての役割・機能，なおいっそうの創造的な資源の開発が重要であり，また，高齢化した長期入院者問題，精神障害者施策における「ノーマライゼーション理念に基づく生活モデルの推進」という共通理念の構築も重要であると述べた．

3）最後に，第3発表者である木村真理子氏は，「日本のソーシャルワーカーが精神保健に貢献できること：国際的観点から見た日本の精神保健医療福祉とPSWの課題」というテーマで，世界における包括的精神保健ケアシステムを発展成功させた具体例と日本の現状を比較検討しながら，①精神保健関係予算の病院から地域への再編・移行，②精神保健専門職の主な活動の場の病院から地域への移行，③政策を実現させようとする政府の強固な意志，④精神保健サービス利用者に対する強い支援，⑤専門職と精神保健サービス利用者のパートナーシップ，⑥病院と地域の諸サービスを一体と見て精神保健ケアシステムをとらえるという6つの要素が重要であると述べた．その上で，ケアマネジメントを進めていくポイント，リカヴァリ指向のアプローチや精神保健コンシューマー主導事業，精神保健改革に向けた計画の必要性をあげた．そして，日本における精神保健福祉改革の課題について指摘を行った．